

No 97

2022.5

<令和4年>

フラノギカイ

主な内容

- ・3月定例会で行われた主な質疑 P2
- ・ロシアによるウクライナ侵攻を強く非難する決議 . . P2~3
- ・新年度予算審議 P3~4
- ・予算総括質疑 P6
- ・一般質問 P7~10
- ・委員会報告 P10~12
- ・議会の中からこんにちは・編集後記 P14

春の恵み



富良野市議会だよりは古紙パルプ配合率
60%再生紙を使用しています。

提出された主な議案と質疑

令和3年度一般会計補正予算
19億1169万円を増額

ICT利活用推進事業費

▲992万8千円

事業内容

RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）などの導入による業務効率化を行うもので、導入の対象としていた業務が当初より少なくなつたために減額するものです。

問 業務委託料の減額について、対象業務が少なくなつた理由は。

答 自治体情報システムの標準化・共通化に関する手順書や法制化により、ガバメントクラウドへの移行を令和7年度までとされた業務は、移行時にRPAを導入すると判断した。これ以外の業務はシステム更新が来年度に控えており、更新のタイミングに合わせRPAの導入を図ることにしたため。

問 ガバメントクラウドへの移行までに業務改善に着手しない理由は。

答 昨年成立した法律により、17業務はガバメントクラウドへ移行とされ、国では令和4年度に標準仕様の策定をする予定で、地方は令和5年から令和7年で順次移行する予定とされたため。

新型コロナウイルス対策観光振興事業費
1500万円

事業内容

コロナ禍の影響が大きい市内宿泊施設への宿泊者へ対し、体験クーポンを配布して観光振興対策を行うため、補助金を交付するものです。

問 4月～6月の宿泊者に配布するクーポンの概要は。

また、どうみん割やGOTOキャンペーンとの併用は。

答 宿泊施設だけでなく、修学旅行の中止に伴う体験事業者の影響も大きくなっており、宿泊と体験を結び付けて支援をする。4月～6月で体験ができることを周知することを目的としている。クーポンは宿泊料金に応じ進呈する予定で、事業は4月22日から6月末までとし、居住地を問わず進呈していきたいと考えている。どうみん割、GOTOキャンペーンとの併用は可能である。



○決議文を採択しました。

3月3日の本会議において、動議として決議文が提出され、審議の結果、全会一致をもって決議文が採択されました。

次のとおり、決議文の全文を掲載し、お知らせします。

ロシアによるウクライナ侵攻を強く非難する決議

ウクライナをめぐる情勢については、昨年以來、国境付近におけるロシア軍増強が続く中、我が国を含む国際社会が緊張の緩和と打開に向けて懸命な外交努力を重ねてきた。

しかし、2月21日、プーチン・ロシア大統領はウクライナの一部である、自称「ドネツク人民共和国」及び「ルハンスク人民共和国」の「独立」を一方的に承認する大統領令に署名し、2月24日、ロシアはウクライナへの武力攻撃、侵攻を開始した。

今回の行動は、明らかにウクライナの主権、一体性を侵害し、武力の行使を禁ずる国際法の深刻な違反であり、国連憲章に反するものである。この事態は欧州にとどまらず、日本が位置するアジアを含む、法の支配に基づく国際秩序に対する挑戦であり、その根幹を

総額 224 億 5820 万円を

までの18日間で開かれ、各議案の審議が行われました。

令和4年度各会計予算、 原案どおり可決

3月 定例会

令和4年第1回定例会（3月定例会）が3月1日から3月18日

揺るがしかなない暴挙である。このようなロシアの力による侵攻行為は断じて認められず、最も強い言葉で非難する。

ロシアは国際社会の強い自制の求めにかかわらず、侵攻行為を継続しており、首都キエフにまで侵攻し、市民への被害の拡大も深く憂慮される。

富良野市議会は、日本国憲法が掲げる平和主義のもと、国際社会の恒久平和を世界に訴えつつ、ウクライナの主権、一体性、独立を支持することを改めて表明し、日本政府が経済制裁や人道支援において、G7をはじめとする国際社会と一致した措置をとることを支持する。重ねて、ロシアに対し、即時に攻撃を停止し、軍の即時撤収と速やかな平和の実現に尽くすことを強く求める。

以上、決議する。

令和4年3月3日

富良野市議会



令和4年度 各会計予算の審査について

令和4年度の予算規模は、一般会計141億6500万円、特別会計55億1450万円、企業会計27億7870万円の総額224億5820万円で、前年度対比11・3%の減となりました。

第6次富良野市総合計画の2年目として、計画の着実な推進に努めるとともに、政策的、投資的経費は補正予算で対応する骨格予算と説明を受け、3月2日に議員全員による予算特別委員会を設置、関連議案と合わせて付託し、休会中に審査を行いました。
主な質疑は、次のとおりです。

ふるさと納税推進事業費

1億5965万9千円

事業内容

富良野の魅力を生かした返礼品の充実により、地場産振興及び独自財源の確保、ふるさと納税をきっかけとした交流人口、関係人口の増加を目指すものです。

問 この事業費は事業に必要な経費だが、寄付額はどれくらい見込んでいるのか。また、返礼品を増やすための取り組みをどのように行っていくのか。

答 寄付額は2億円の見込みで予算を編成している。返礼品については現在61事業者に関わっていただけであり、数は250品という状況。ふるさと納税の寄付額の増加を目指し、事業者説明会等を行いながら事業者や返礼品の数も増やしていきたいと考えている。

問 この事業費の中にはふるさと納税のホームページ作成委託料も入っている。これまでも市のホームページ内にサイトがあったが、新たに作成する意義は。

答 現在は市のホームページから各ポータルサイトにアクセスしていく形で誘導していたが、今後はさらなる寄付額の増加を目指し、富良野市の特産品やまちの魅力などを集中的に発信するサイトを設けていく。

ファミリーサポートセンター事業費 494万4千円

事業内容

子育ての援助を受けた人（依頼会員）と行ないたい人（提供会員）が会員組織をつくり、援助を必要とする依頼会員がセンターに援助を申込み、提供会員が子どもをお預かりする事業です。

問 昨年度より増額になっていく要因は。また、業務内容に変更

はあるのか。

答 増額の理由は、委託先が変わるため。これまでは、ボランティアの理念、福祉の精神も兼ね備えた団体が受託しており、経費が安価に抑えられていたが、委託先が変わることになり、再度、人件費や事務諸経費などを積算した。業務内容はこれまでの事業を継続していく。

除雪対策事業費

3億5879万5千円

事業内容

市内の除排雪にかかる事業費です。

問 昨年より金額が増えている。その内容は。また、排雪一回にかかる費用は。

答 予算の増額については、排雪運搬台数の増加を見込んでいる。特に通学路、バス路線を令和3年度も強化して行ってきたが、さらに強化して通学路およびバス路線その他幹線路線で車が正常に今後通行できるような形にしていきたい。一回の排雪にかかる費用は、地区や台数によって変わるが、過去の平均は、1月期にかかるダンプの台数が5190台、価格が3550万円ほどとなっている。

ふらのワイン50周年記念事業実行委員会補助金

1000万円

問 事業の内容は。

答 実行委員会の体制を作り、その実行委員会に対して補助金を見込んでいます。実行委員会の体制は、富良野市ぶどう果樹研究所、醸造用のブドウ耕作組合、小売酒販組合、料飲店組合、原料ぶどう管理組合など、関係する他団体から代表を選出し、実行委員会のメンバーを構成している。記念式典は10月23日に予定している。他に記念ワインの製造販売や50周年の記念誌の制作を進めている。また、新聞広告や各雑誌、メディア等へ、PRの実施をしていきたいと考えている。



審査した結果及び経過は、3月18日の本会議で次のとおり報告後、可決しています。

予算特別委員会報告

令和4年度予算案は、令和3年度からスタートした第6次富良野市総合計画に掲げる主要施策の目標達成に向け、事業推進を行うとともに、市長選挙を控えていることから、骨格予算とし、義務的経費や継続的事业を中心に予算を編成したとする、総額224億5820万円です。

審査においては、この令和4年度当初予算案とこれに関連する議案について、厳しい財政状況の中、経済の状況や国の地方財政対策等を踏まえつつ、本市の将来を見据え、各事業予算が適正に編成されているかの観点から質疑が行われました。

一般会計予算の歳出に対する質疑は、ふるさと納税推進事業費、地域おこし協力隊派遣事業費、ファミリーサポートセンター事業費、子どもの木育スタート事業費、地域センター病院周産期医療体制確保対策補助金、緊急風しん対策事業費、地球温暖化防止対策事業費、国営富良野南富地区基盤整備推進事業費、農村環境改善セ

ンター運営管理費、メイドインフラノ推進事業費、ふらの版DMO推進事業費、道路維持補修事業費、除雪対策事業費、東5条3丁目地区市街地再開発事業費、学校図書館活用推進事業費、育英事業費など、総務費、民生費、衛生費、農林業費、商工費、土木費、教育費に対し行われ、歳入に対する質疑は、富良野市山部診療所診療収入、基金繰入金について、また、特別会計、企業会計に対しては、介護保険特別会計、ワイン事業会計について活発な質疑が行われました。

質疑の終了後、討論の申し出はなく、採決の結果、議案第1号は、賛成多数、議案第2号から議案第8号、及び関連する議案第16号の8件の議案は、全会一致をもって、それぞれ「原案のとおり可決すべきもの」と決定しました。



令和4年 第1回 富良野市議会定例会 議決結果表

令和4年3月1日～3月18日(18日間)

議決結果

議案番号	事 件 名	議決月日	議決結果
議案第 1 号	令和4年度富良野市一般会計予算	3月18日	原案可決
議案第 2 号	令和4年度富良野市国民健康保険特別会計予算	3月18日	原案可決
議案第 3 号	令和4年度富良野市介護保険特別会計予算	3月18日	原案可決
議案第 4 号	令和4年度富良野市後期高齢者医療特別会計予算	3月18日	原案可決
議案第 5 号	令和4年度富良野市簡易水道事業特別会計予算	3月18日	原案可決
議案第 6 号	令和4年度富良野市水道事業会計予算	3月18日	原案可決
議案第 7 号	令和4年度富良野市下水道事業会計予算	3月18日	原案可決
議案第 8 号	令和4年度富良野市ワイン事業会計予算	3月18日	原案可決
議案第 9 号	令和3年度富良野市一般会計補正予算(第15号)	3月 3日	原案可決
議案第10号	令和3年度富良野市国民健康保険特別会計補正予算(第3号)	3月 3日	原案可決
議案第11号	令和3年度富良野市介護保険特別会計補正予算(第3号)	3月 3日	原案可決
議案第12号	令和3年度富良野市後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)	3月 3日	原案可決
議案第13号	令和3年度富良野市公共下水道事業特別会計補正予算(第1号)	3月 3日	原案可決
議案第14号	令和3年度富良野市簡易水道事業特別会計補正予算(第2号)	3月 3日	原案可決
議案第15号	令和3年度富良野市水道事業会計補正予算(第3号)	3月 3日	原案可決
議案第16号	富良野市財政調整基金の処分について	3月18日	原案可決
議案第17号	富良野市行政財産使用料条例の制定について	3月18日	総務文教委員会付託 継続調査
議案第18号	富良野市職員定数条例の一部改正について	3月18日	原案可決
議案第19号	富良野市職員の分限に関する手続及び効果に関する条例の一部改正について	3月18日	原案可決
議案第20号	富良野市職員の育児休業等に関する条例の一部改正について	3月18日	原案可決
議案第21号	富良野市立学校設置条例の一部改正について	3月18日	原案可決
議案第22号	富良野市国民健康保険税条例の一部改正について	3月18日	原案可決
議案第23号	富良野市チーズ工房設置条例の一部改正について	3月18日	原案可決
報告第 1 号	専決処分報告について (令和3年度富良野市一般会計補正予算(第14号))	3月 2日	原案承認
報告第 2 号	専決処分報告について (市道における物損事故の損害賠償及び和解について)	3月 2日	報告済
報告第 3 号	専決処分報告について (市道における物損事故の損害賠償及び和解について)	3月18日	報告済
決議案第1号	ロシアによるウクライナ侵攻を強く非難する決議	3月 3日	原案可決
その他会議に付した事件	発議 議員の派遣について	3月18日	決 定
	議員の派遣に関する報告(都市事例調査)	3月 2日	調 査 済
	議員の派遣に関する報告(議会報告会)	3月18日	報 告 済
	所管事項に関する委員会報告		
	・事務調査報告(総務文教)	3月 2日	報 告 済
	・事務調査報告(市民福祉)	3月 2日	報 告 済
	・事務調査報告(経済建設)	3月 2日	報 告 済
	富良野市議会議会改革特別委員会報告	3月18日	継続調査
	監査委員報告		
	・例月出納検査結果報告(令和3年度10月分～12月分)	3月 1日	報告済3件
	・定期監査報告	3月 1日	報 告 済
	・財政援助団体監査報告	3月 1日	報 告 済
	閉会中の所管事務調査について(総務文教・市民福祉・経済建設)	3月18日	許 可 3 件

予算総括質疑

令和4年度の予算は、市長改選に伴い、政策的な経費を除いた骨格予算として編成されているため、例年行われている代表質問に代わり、会派の代表による予算総括質疑が行われました。質疑の文責は質問者であり、質問と答弁の要旨を掲載しています。顔写真は質問とは別に撮影しています。



佐藤 秀靖（「ふらの未来の会」）

問 体育施設管理費のスポーツセンター耐震診断業務委託費の事業

目的はスポーツセンターの修繕を前提にした改修なのか、建替を含めた改築を視野に入れたものか。

答 スポーツセンターは昭和56年以前に建設され、耐震性が不足または明らかでない特定公共建築物であるため、耐震診断を踏まえ、建替または耐震改修の検討が必要な施設としている。

これまで「建替の検討」を前提に必要な修繕を行い使用してきたが、天井材の一部が落下したこともあり、改修方法について検討するため、耐震診断を行う。

問 ゼロカーボンシティを目指した取り組みの市民周知は。

答 毎月、広報ふらのに市内在住の北海道地球温暖化防止活動推進委員のコラムを掲載するとともに、本年度は、ふらの環境展での周知活動と第3次富良野市環境基本計画で設定した環境指標実績をまとめた富良野市環境白書の発行を考

えている。
問 子育て支援策として「子ども

して進めるに至った考えは。

答 「子どもの木育スタート事業」は子どもの頃から木と五感で「ふれあう」ことにより感性を高め、人や自然に対する「思いやりや優しさ」を育むことを目的として「ふらののつみき」を乳幼児7ヶ月相談の時に贈る事業として開始。

令和4年度からは本市博物館が発行した「ふらの木の図鑑」を一緒に贈ることにより、「木とふれあい、木に学び、木と生きる」取り組みである木育が一層進み、子どもたちにより豊かな心が育まれることを期待している。

また、「高等学校バス通学費補助金」については、市内の高等学校に路線バスを利用して通学する生徒に対して乗車距離が片道10km以上の通学定期券および回数券購入代金の4割を補助してきたが、保護者の負担軽減と市内高校を選択する魅力づくりの一つとして新年度から補助率を5割にするものである。

その他
「公共交通計画策定事業」「関係人口創出事業」など。



宇治 則幸（市民連合議員会）

問 一般会計予算の市税の積算で、

税収が伸びる根拠は。

答 増額の主な要因として、固定資産税及び都市計画税については、新型コロナウイルス感染症対策として実施の軽減措置が終了し、元の税額に戻ること。また、法人市民税についても、経済見通しや政府予算案における法人税の伸び傾向、令和3年度の各法人の納税状況を勘案し増額計上した。

問 財政調整基金より2億円の取り崩しを行うとしているが必要があるのか。財政調整基金より2億円の取り崩しを行うとしている必要があるのか。

答 令和4年度は、骨格予算として、義務的経費及び継続的事业に要する経費の計上を基本とするとともに、新型コロナウイルス感染症拡大対策や少子高齢化など社会構造の変化に迅速な対応が求められる事業、市民生活に密着した重要な事業など所要の経費を当初より計上し編成したため、財政調整基金を活用しようとしている。

問 総合計画推進事業のシティブ

催しようとしているが具体的にどのように進めていくのか。

答 シティプロモーション戦略については、第6次富良野市総合計画では交流人口から関係人口を創出し、将来的な移住・定住につながることを目指しており、ブランド力、発信力を高めることは欠かせないものとして、シティプロモーションを定義し、戦略作りを進めていく。

ワークシヨップについては、「共創のまちづくり」の取り組みとして、課題に対してアイデアを出し合い、解決の手法を考え合う場として、テーマごとに開催を予定している。

問 地域おこし協力隊派遣事業について、どこの地域に、どのような業務に充てていくのか。

答 令和3年度から山部地区の地域振興のために配置している2名は引き続き配置し、新たに情報発信・シティプロモーション業務、関係人口創出としてワークシヨップ業務、ふるさと納税業務に3名の配置を予定している。

ここが聞きたい! 一般質問

令和4年第1回定例会において6人の議員が一般質問を行いました。文責は、質問者にあるものとして、質問・答弁の要旨を掲載しております。なお、議員顔写真は質問中ではなく、別途撮影した写真です。

質問者が収録されている動画のタイトル、動画上で質問が開始される時間は下記のとおりです。

・富良野市議会 議会中継 (令和4年3月8日)			
水間 健太	議員	00分 48秒	ごろ
本間 敏行	議員	35分 18秒	ごろ
渋谷 正文	議員	47分 37秒	ごろ
大栗 民江	議員	1時間 39分 14秒	ごろ

・富良野市議会 議会中継 (令和4年3月9日)			
松下 寿美枝	議員	24秒	ごろ
宮田 均	議員	48分 09秒	ごろ



富良野市議会のYouTubeチャンネルでは、議案質疑や一般質問など、本会議のすべてを視聴できます。左のQRコードを読み込むとサイトに接続できます。

観光振興に

民間の力の活用を

水間 健太
〔ふらの令和の会〕

ふらの版DMO推進事業について

問 観光地域づくりの舵取り役として設置を目指している、ふらの版DMOの検討状況は。

答 新型コロナウイルス感染拡大で大きな影響を受けている観光関係事業者への支援を最優先し、DMOの検討は一時中断している。

問 ふらの版DMOの設置に向けたスケジュールは。

答 国連世界観光機関によると、国際観光が令和元年の水準まで回復するのは令和6年頃と予測されている。DMOの設置は令和5年設置を目的に協議を進めていく。

問 観光振興財源、いわゆる宿泊税の導入スケジュールは。

答 北海道との協議が必要だがDMOの設置に合わせできるだけ早い段階で導入したいと考えている。

問 DMOが担うべき事業のうち、プロモーションやコンテンツづくり等のソフト事業は、富良野観光ウェブキャンペーン実行委員会のように民間のノウハウを活用しスピーディーな事業展開ができる体制づくりが重要と考えるが見解は。

答 コロナ禍における観光誘致事業の企画実施を、この実行委員会



が仮想DMOとして役割を果たしてきたものと考えている。今後の組織の構成については、スピーディーに事業展開できる形を検討していきたい。

保育の充実について

問 幼稚園を含む市内保育施設における保育士（働き手）の充足状況と確保対策は。

答 各施設とも人材確保に苦慮しながら運営している。確保の課題解決に向けては市内の幼児教育・保育施設からも人材確保の難しさについて意見が出されていることから事業者とともに考えていく。



スマートフォンで左のQRコードを読み取ると観光庁のホームページ(DMOの説明)が開きます

観光地域づくり法人(DMO)とは

「書かない窓口」

の実現を

本間 敏行
〔ふらの未来の会〕



行政窓口サービスについて

問 住民票などの申請者は記載台で申請書に記入する必要がある。これを廃止し、職員が窓口で聞き取り、住民情報を直接入力し、申請書の作成を支援する「書かない窓口」を導入することで、市民サービス向上に取り組んでは。

答 申請書を「書かない窓口」は、全国の各自治体窓口でICT化による業務効率化や市民サービス向上が進められており、本市も調査研究を進めている。令和2年7月と昨年10月には「窓口支援システムを活用した地方都市における業務標準化モデル」を実践している北見市役所の窓口サービスの改善方法と「書かない窓口」の利用方法等について視察を行っている。

「書かない窓口」について、国のデジタル田園都市国家構想推進交付金等の活用による導入も含め、現在、協議・検討を行っている。

問 「書かない窓口」は、新庁舎の開庁時に導入する見通しか。

答 国のデジタル田園都市国家構想推進交付金の交付決定は4月以降になると聞いている。当面のスケジュールとして、この交付金が交付決定されたならば、6月定例



本市申請書記載台

会に予算案を計上し審議をいただきたいと今の段階で考えている。

問 「書かない窓口」導入の際に職員研修が必要になると考えるが。

答 導入の際には、窓口は新庁舎となつていくことから、その使い方、活用方法について、市民サービス向上が図れるように研修等の時間を取っていきたい。

問 「書かない窓口」導入支援システムの利用料の支払い先は。

答 このシステムは北見市のIT会社が開発したと聞いているが、支払い先については、まだ確認が取れていない。

持続的発展ができる
地域モデルの実現を

渋谷 正文
〔ふらの未来の会〕



企業と共に成長発展する自治体について

問 現在、ホテル企業は国際競争激化を見据え、大胆な経営資源の選択と集中によって立て直しを進める模様である。まちの価値を共に創り上げてきた大切なパートナー企業として今後も連携・協力が不可欠であると考ええる。魅力ある観光地として、スポーツツーリズムの魅力を高める方策や支援策の検討を進める必要があるのでは。

答 今後の課題は、富良野スキー場施設の更新や、再投資であること認識をしている。

これからの成長戦略として、軽井沢・箱根・富良野などの知名度の高いリゾートについて、サステイナビリティを意識した上で、再開発に注力することとしていることから、本市としても、早期の再開発の実現に向け、連携をしていく。

問 基本目標に掲げるオールシーズン「滞在型」の国際観光地に向けた取り組み状況と評価は。

答 ふらのビジョンの5つの戦略のうち、「心地よい賑わいをもた

らす空間のデザイン創出」は、本市が国際的なリゾートエリアとして持続的に発展を遂げるための必要な考え方の一つであると認識をしている。現在、取り組みは進んでいない状況であるが、今後、スキー場再開発の機会などとあわせて、ビジョン実現に向け、関係機関と協議していく。

その他の質問
・JR根室線（富良野～新得間）の基本的な考えについて
・将来を展望した都市空間の創造について

5. 5つの戦略(重点項目)

5-2.心地よい賑わいをもたらす空間デザインの創出

重点エリア(案)	個別事業(案)
アスレチックの増設 つづむ公園	① 富良野駅南口の再整備 ② 富良野駅南口の再整備 ③ 富良野駅南口の再整備 ④ 富良野駅南口の再整備
富良野市の中心部 数珠上	① 富良野駅南口の再整備 ② 富良野駅南口の再整備 ③ 富良野駅南口の再整備 ④ 富良野駅南口の再整備
富良野市とオホshima 間の連携	① 富良野駅南口の再整備 ② 富良野駅南口の再整備 ③ 富良野駅南口の再整備 ④ 富良野駅南口の再整備
富良野市とオホshima 間の連携	① 富良野駅南口の再整備 ② 富良野駅南口の再整備 ③ 富良野駅南口の再整備 ④ 富良野駅南口の再整備
富良野市とオホshima 間の連携	① 富良野駅南口の再整備 ② 富良野駅南口の再整備 ③ 富良野駅南口の再整備 ④ 富良野駅南口の再整備

未来の姿から今を考える
ふらのビジョン2030

結婚新生活支援事業について

大栗 民江
〔無会派〕



結婚新生活支援事業の拡充に向けた検討について

問 「結婚新生活支援事業」は、道と市が地域少子化重点推進交付金事業計画を定めて参画しており、事業を実施する市町村は倍増した。結婚による新居等に30万円や60万円等の助成がある本事業を推進するべきと思うが、本市に提出された婚姻届出や婚姻数の傾向は。

答 結婚に伴う新生活のスタートアップに係る新居の家賃や引越費用等を支援する地方公共団体を対象に国が支援額の一部を補助する「結婚新生活支援事業」の対象世帯は、令和3年1月1日から令和4年2月24日までの婚姻届出数77件のうち夫婦とも39歳以下の婚姻数は58件となっており、全体として微減している状況である。

問 既存の住宅支援事業に、結婚新生活支援事業の活用を含めた検討から1年経過するが進捗は。

答 市が所有する未利用地を活用して、子育て世代や新婚家庭にかかわらず住宅取得の支援に関する事業の検討を始めたところである。

問 風疹予防の取り組みについて
妊婦さんと未来の赤ちゃん



ふらので家族になろうよ

の健幸を守ろうと、風疹の追加的対策として市から対象男性に無料クーポン券を送付しているが、42歳から59歳の対象男性への抗体検査受検と受診率向上に向けた取り組みは。

答 風疹の予防接種を受ける機会がなかった昭和37年4月2日から昭和54年4月1日までの間に生まれた男性に抗体検査及び予防接種を実施している。対象者は、勤労世代であるため、特定検診や事業所健診の機会を活用し、商工会議所と連携した抗体検査の受検勧奨や周知を行っている。

富良野市のヤングケアラーの状況は

松下 寿美枝
〔市民連合議員会〕



ヤングケアラーの状況について

問 ヤングケアラーとは、本来大人がすると想定されているような家事や家族の世話などを日常的に行っている18歳未満の若者と定義されている。国の調査によると、中学生の17人に1人がヤングケアラーに該当する結果になっている。本市の実態と、これまでの状況は。

答 昨年、道内の中学2年生、高校2年生を対象に行った実態調査では、本市におけるヤングケアラーに該当する生徒はいなかった。要保護児童対策地域協議会のケース会議においても、確認された案件はない。

また、これまでの対応は、教職員、児童生徒、保護者に対し、リーフレットを配布し、ケアラーへの理解を深め、地域・社会のネットワークによるケアラーの支援の必要性などを啓発している。

問 今後、本市独自の実態調査を行う考えは。

答 現在、本市として実態調査を行うことは考えていない。子どもの様子を察知しやすいのは学校なので、教員による観察、把握を適宜行い、可能性がある子どもがいれば支援につなげていく。学校、

保護者、高齢者福祉の分野などの周囲の大人への理解を進めながら支援が必要な子どもが認知された時に即対応ができるように、要保護児童対策地域協議会等との情報共有などを行っていく。今後、北海道でも実態調査を予定しており、その中で関係者の理解を深めていきたい。

・若者が定着するまちづくりについて
・親子でスキーに親しめる環境づくりについて
・その他の質問



学校で配布されたチラシ

JR根室線（富良野―新得間）の存続について

宮田 均
〔無会派〕

JR根室線の被災後の経過と対応について

問 平成28年8月の災害後、11月にはJR北海道単独維持は困難な赤線区とした経緯と、国が赤線区への支援を行わない理由と、これに対する本市の対応は。

答 平成30年、国の監督命令及びJR北海道の中期計画等において、「鉄道特性を有しなくなった路線」として、持続的な交通体系とするためにバス等への転換を進めていくとされ、「国は赤線区への支援対象としない」とした。本市の対応は、根室線対策協議会として、国土交通大臣、国交省、道内選出国会議員、北海道、道議会、JR北海道へ、根室線の災害復旧と路線存続、観光活用などについて要請活動を行ってきた。

問 被災後、特定大規模災害等鉄道施設災害復旧制度の活用は検討されたのか。

答 昨年7月のJR北海道からの鉄路存続も含めた線区のあり方検討の申し出では、東鹿越―新得間の災害復旧は、沿線市町村に費用を求められていないことから、特定大規模災害時等鉄道施設災害復旧制度の活用は検討していない。



問 1月28日、「鉄路存続断念」と報道されたが、JR根室線富良野―新得間住民説明会では、バス転換を前提とした説明会になるのか。

答 前提を設けず、鉄路の存続を含めた線区のあり方、地域交通体系、バス転換等の市の考え方を示し、市民の声を聞く。

△その他の質問▽
・山部地区での農地台帳の田と水利権のある田の面積の違いについて
・クラウドファンディング型ふるさと納税について



布部駅に停車中の列車

調査第4号 市有財産について

〔最終報告〕
総務文教委員会

本市では、今後の人口減少と高齢化がさらに進むことが想定される中、公共施設等の老朽化が進み、維持が困難になることが見込まれ、計画的に効率よく公共施設等の整備や維持管理を行うことを目的に富良野市公共施設等総合管理計画を策定しています。施設整備時に機能統合や規模見直し等を行う努力が必要とされ、さらに整備計画があるもので整備予定の用途が立たないものについては、市民意見を踏まえた見直しを図るとされています。

特に未利用財産においては、売却、貸し付け、解体を含めた利活用における基本的な考え方を富良野市未利用財産活用基本方針において定めています。

旧北の峯ハイツ、旧山部中学校、旧山部南陽館等の現地調査を行い、未利用財産の管理、処分について大きく三つの課題として整理しました。

1. 未利用財産の現状把握と公表については、その内容や位置図をデータ化し、公有財産台帳へ反映させていくことが望ましく、把握した未利用財産の活用方針を整理

し、公表する必要がある。

2. 維持管理と今後については、単に市の資産として保有し、有休化させては維持管理費や修繕費、解体費などの財政負担が増加することも危惧されることから、利活用計画とともに、関連する支援制度等を活用した計画的な予算措置を講じていく必要がある。

3. 個々での未利用財産に対する利活用方針の決定については、将来的な利活用計画が定められていない未利用財産について、「富良野市公有財産利活用検討委員会」において、委員である職員の考えだけでなく、市民や地域の意見、民間事業者等からも広く意見や提案を求め、それらを踏まえて、個々の財産について行政上の将来的な必要性を総合的に検討の上、利活用方針を決定し利活用及び処分を進める必要がある。

未利用財産は今後、次の世代の負担軽減のためにも、計画的に処分を行い、維持管理経費の節減や住民サービス向上の点からも自主財源の確保に向け、市有財産も収益財産になり得ると捉え、積極的な利活用に向け検討されたい。

調査第5号 環境基本計画・地球温暖化対策実行計画について

【最終報告】

市民福祉委員会

平成27年12月に成立したパリ協定で、脱炭素社会構築への流れが明確となり、世界は化石燃料依存から脱却していく方向性が示されました。

これを受けて、日本は2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにする目標を掲げ、本市では、令和3年4月に「2050年ゼロカーボンシティ」を表明するとともに、「第3次富良野市環境基本計画・地球温暖化対策実行計画」を策定し、市民・事業者・市が一体となって、様々な事業に取り組んでいます。

一方で、本市の産業構造から起因する宿泊施設や飲食店などの廃棄物の減量や、家庭における食品ロスの削減など、環境政策に関する課題を抱えており、本委員会では調査及び議論を進め、次の3点について意見の一致をみました。

1. ごみの分別などに対する市民満足度を「市民の誇り・シビックプライド」に昇華させるため、本市独自のキャッチフレーズなどを使い、環境政策を積極的に市内外に発信されたい。また、事業系廃棄物の減量に向けて、市と事業者

が一体となって対策を講じられたい。その際「環境配慮協力店」のような組織を構築し、事業者へは付加価値の提供、消費者へはエコポイントの付与など、事業者と消費者の双方がメリットを享受でき、協力や努力を見える化する仕組みを検討されたい。さらに、老朽化するリサイクルセンターの改修に備え、国等の支援施策の活用に向けて調査研究を進められたい。

2. 公共施設等において、固形燃料(RDF)の生産工程や、RDFボイラーによる熱供給の仕組みを展示し、市民に視覚的に訴え、なお一層の取組や行動変容を促す機運を醸成されたい。また、「脱炭素社会のまち」に向けて、国などの政策動向に関する情報収集に努め、事業の実施機会を逸することがないよう、関係資料やデータ整理などを急がれたい。
3. 環境課を軸とした庁内連携を強化するとともに、市民や事業者から意見等を聴取する仕組みを整備し、情報共有を図りながら、市民・事業者・市が一体となって、環境・産業・観光の好循環サイクルの構築に向けて取り組まれたい。

調査第6号 農業振興と担い手対策について

【最終報告】

経済建設委員会

第3次富良野市農業及び農村基本計画における3つの重点取り組みと9つの主要課題のうち、働き手確保と省力化が重要課題となっており、働き手確保を進め、働き手確保の必要性と働きやすい環境整備。新規就農の要件緩和と担い手確保。省力化対策としてのスマート農業の推進。さらに、環境保全型農業と持続可能な農業振興について議論を進めてきました。

本委員会では、これらの調査を踏まえ意見交換を行ったところ、次の4点について、意見の一致をみました。

1. 働き手確保(雇用従事者の確保)については、「ウイズコロナ」「アフターコロナ」の社会像を見据えて、外国人研修生や外国人労働者の確保に向けてさらに努力するとともに、女性や高齢者など誰もが働きやすい環境整備(働き方改革)への側面支援、ゼミの開催のほか、出前講座やインターネットを活用した市民周知に努められたい。
2. 新規就農の要件について早急に要件緩和を協議・検討すべきである。また、経営主となる担い手

確保・育成については、農家子弟のU・Iターン等、就農の促進・支援の強化が必要と考える。本市での就農希望者を取りこぼさないことを基本とされたい。

3. 省力化対策については、「富良野市スマート農業研究会」の設立により、スマート農業の研究・検討が実施されているが、省力化と効率化を目指し、若い世代の将来に明るい発想を活かしながら、高齢者でも可能なスマート農業へのサポート体制を強化し、長期的な営農ができるよう幅広い年代の構成員の参画と、導入に向けた経済的支援に努められたい。
4. 環境保全型農業と持続可能な農業振興については、みどりの食糧システム戦略の実現に向けて、農業関係団体と協議を深め、富良野農業の将来像を描くとともに、環境にやさしい農業の実現のため営農指導の強化を図るべきである。さらに地元野菜の6次産業化と地産地消を一体的に取組み、本市全体を一つの事業体として地域との連携を図り、まちづくりの中の農業振興として推進されたい。

議員定数について

本委員会では、令和5年4月に統一地方選挙として富良野市議会議員選挙が予定されていることから議員定数について議論を進めてきました。

前期の議会改革特別委員会で確認された6つのポイントに加え、市民意見の集約のため議会報告会や公開講演会を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大により実施することができませんでした。このことから、個々の議員が市民意見の聴取に努め、119名の方から回答を頂きました。また、市民公開は中止となった講演会では、委員会等で議論が活発に行える人数である多様性の確保、議会機能を補完する市民参加の機会の確保など新たな論点が見えてきました。

整理した6つのポイントに加え、市民アンケートの結果と講演会で見えた新たな論点を中心に議論を進めました。市民アンケートでは、約68%が削減、約26%が現状維持、3%が増員、3%がその他であり、削減の声が多い結果となりました。削減の理由としては人口減少や類似団体との比較、無投票当選を回

【中間報告】 議会改革特別委員会

避するためが多く、現状維持と増員の理由としては市民意見の反映、多様な意見反映のためが多くありました。新たな論点については、常任委員会等における議論の多様性を確保しつつ、議会機能を維持できる定数のあり方に焦点を絞り議論を進め、現状の議会運営に照らし合わせながら議論を進めてきました。

具体的な議員定数の結論を導き出すに当たっては、市民の意見として削減の声が多いこと、市民意見の反映など行政に声が届かなくなる不安の声も一定数あるということとを十分考慮する必要があります。また、議会機能を維持しつつ多様性を確保できる数であること、これらを踏まえ、具体的な議員定数については、現在より2名削減し16名とする、現状維持とする、の2案に絞られ採決の結果、富良野市議会議員の定数を2名削減し16名とすることを本委員会の結論とすることに至りました。

また、議員定数の増減に関わらず、議会は市民福祉の向上に資するため努力を続けることが重要であると意見の一致をみました。

委員会報告 議員派遣報告

議員派遣に関する報告

議会報告会は例年、全議員を3班に構成し、市内15会場で行っていたところですが、新型コロナウイルスの感染状況は小康状態にあったものの終息の目途が立たず、感染拡大の可能性もあり先行き不透明な状況であったことから、会場での開催を見送ることとなりました。

しかし、市民が開かれた議会の実現や、議会活動への理解促進を図るため、主な議案や常任委員会報告などを動画にまとめ、動画配信サイトを利用し、令和3年12月18日から令和4年1月20日までの期間で公開をしました。

動画の視聴状況を分析すると、公開期間中の再生回数329回、視聴者数は180人程度となっており、再生機器別ではスマートフォンでの視聴が70%、パソコンでの視聴が30%であることから、これまで報告会に参加できなかった方々の視聴が多かったものと推測されます。

今後の議会報告会においては、これらの分析を参考に、例年どおりの会場開催を基本として、動画配信なども視野に入れ、より充実

議会報告会

した報告会の在り方を検討していきます。



事務調査申出

●各委員会では議長の許可を受け、閉会中、次のとおり事務調査を行います。

委員会名	調査番号	調査件名
総務文教委員会	調査第1号	I C T利活用について
市民福祉委員会	調査第2号	女性が活躍するための支援体制の充実について
経済建設委員会	調査第3号	新型コロナウイルス感染症に対する事業者支援の現状について

議会日誌 ～令和4年2月から令和4年4月の議会関係の開催状況をお知らせします～

2月

- 1日・議会広報特別委員会
- 2日・広域連合議会第1回定例会
告示
- 3日・広域連合議会運営委員会
- 7日・経済建設委員会
- 8日・市民福祉委員会
- 9日・広域連合議会第1回定例会
- 10日・総務文教委員会
・議会改革特別委員会
・議員協議会
- 14日・経済建設委員会
- 17日・市民福祉委員会
- 21日・議員協議会
- 22日・第1回定例会告示
- 25日・議会運営委員会

3月

- 1日・第1回定例会（1日目）
・議会広報特別委員会
・代表者会議
- 2日・第1回定例会（2日目）
・令和4年度予算特別委員会
- 3日・第1回定例会（3日目）
・総務文教委員会
・経済建設委員会
- 8日・第1回定例会（4日目）
- 9日・第1回定例会（5日目）
・議会改革特別委員会
- 14日・令和4年度予算特別委員会
・議員協議会
- 15日・令和4年度予算特別委員会
- 16日・令和4年度予算特別委員会
・議会運営委員会
・代表者会議
- 18日・第1回定例会（6日目）
・議員協議会

- 28日・議会広報特別委員会
- 29日・市民福祉委員会
- 30日・総務文教委員会

4月

- 7日・議会広報特別委員会
- 11日・総務文教委員会
- 13日・市民福祉委員会
- 15日・議会広報特別委員会
- 19日・経済建設委員会
- 21日・総務文教委員会
・代表者会議
・議会運営委員会
- 28日・市民福祉委員会



次回定例会（令和4年6月）のご案内

次回定例会の開催予定です。開会は通常10時となっています。

日	月	火	水	木	金	土
5/29	30	31	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	7/1	2
	予備日	一般質問		本会議		

議会日程は変更になる場合があります。

議会を 見る聴く

インターネット中継

本会議や一般質問はインターネット中継を行っています。

[富良野市議会インターネット中継](#) [検索](#)
インターネット生中継・録画中継

ラジオ放送

一般質問の質疑を編集したものをラジオふらので放送しています。放送日程については議会ホームページなどをご確認下さい。

議会を 読む知る

議会広報紙

定例会ごとに、議会広報紙を発行し全戸配布しています。ホームページからもご覧になれます。

議会ホームページ

議会ホームページでは、本会議や諸会議の開催案内や会議録などを掲載しています。ぜひご覧ください。

予算委員会の裏側密着取材!!

議会の 中から こんにちは

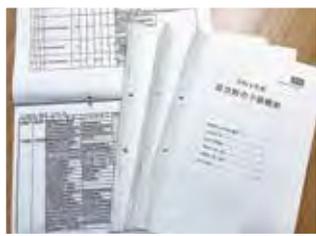
3月の定例会では、次年度の当初予算が上程されるため、通常の定例会での審議とは異なり、「予算特別委員会」を設置して審査を行います。
委員会での審査は3日間（市民の皆さまが傍聴できる日）で行われますが、審査の当日までの流れ（裏側）を今回はご紹介します。

○3月2日
正副委員長の互選。
審査資料請求

○議案調査

○14日～16日
予算審査
(予算特別委員会)

3月2日 令和4年度予算特別委員会
委員長に小林委員・副委員長に松下委員が選任されました。



※概要書3部と請求資料（上写真） ※予算書に付箋を貼ってチェック（上写真）

会派ごとに、予算書の内容を隅々まで確認していきます。提出された資料の確認のみならず、各担当部局に伺って調査も行います。予算の編成は、市民生活に有効な税金の使途となるのか、数日間に渡り議論を深めていきます。「委員会で質疑する必要があるのか」、議員個人の見解だけでなく、会派の中で話し合い、「予算特別委員会」において質疑に立ちます。
(質疑とは～提案者に対し、疑問や不明な点について説明を求めること。)



※会派で話し合う様子（左右2枚の写真）

「予算特別委員会」は18名の議員全員で構成され、担当部局と質疑応答を行います。最終日に審査を終えて、本会議で委員長から審査結果が報告されます。

編集後記

▼花の便りが聞かれる季節となりました。環境が変わった方、変わらない方、みなさん、どんな春を迎えているでしょうか。

▼先日、「毎日8万6千400円をもらったら何に使う?」と聞かれました。「86400」という数字は、1日を秒に換算した数字だそうです。

▼まさに「時は金なり」。貴重な時間を無駄遣いしてはいないか。誰かの時間泥棒になってはいないか。新しい春を迎え、改めて時間を大切にしようと思いました。

▼広報紙のリニューアルをしてから、表紙、裏表紙がカラー印刷になりました。

▼表紙の写真は、毎回、担当委員が富良野の旬を切り取った写真でお届けしています。

▼ぜひ、紙面の内容と合わせて、表紙の写真も楽しみにしていただけたいと思います。

(委員 松下寿美枝)

発行責任者

議長 黒岩 岳雄

議会広報特別委員会

委員長 関野 常勝
副委員長 水間 健太
委員 小林 裕幸
〃 渋谷 正文
〃 大西三奈子
〃 宮田 均
〃 松下寿美枝

